



N-1-26

編輯局報情

週報

號日六月一

昭和十八年十一月六日 第一號 禮拜日發行
（毎）向水曜日發行

五錢

實踐せよ必勝の戦争生活

新年の戦局に對する觀察

今年こそ激闘の年

國際情勢の展望

玄米食について（炊き方と食へ方）

325號

實踐せよ、必勝の戦争生活

我々はいま大東亞戦争第二年の新春を迎へた。支那事變勃發以來、六度目の戦時下に迎へる新年である。

この年頭に當つて、われ／＼國民としては、本年こそは眞に戦争生活に徹すべき年だといふことを決意すべきである。戦争生活とは、單に戦時下、或ひは戦争下の生活といふ意味ではなくて、我々の生活自體が戦争の一部であり、生活が即ち戦争であるといふ意味である。

大東亞戦争は今や生産戦の相貌を呈し、第一線への兵器彈藥の補給の如何が戦ひの勝敗を決すると言つても過言ではない。従つて軍需生産における生産力を擧げて増産に努むべきことはいふまでもないが、軍需生産とは直接に關係のないやうな我々の生活自體も、第一線の戦力と直接の關係をもつやうになつて來たのである。

わかり易く例をとつて言はう。今假りに、作戦上多數の船舶が必要だとする。この場合、國內の生活必需物資を輸送するために、どうしても作戦目的に割くことの出來ない船腹があつたとすれば、第一線

への兵器、彈藥の輸送力がそれだけ妨害される。言ひかへれば、その生活必需物資は、前線の將兵へ送る彈丸を、糧食を、犧牲にして輸送されたものである。

輸送力は必ずしも海上輸送力には限らない。海上輸送は陸上輸送に、鐵道輸送は貨物自動車輸送、荷馬車輸送などへと次ぎ／＼に轉移するものであるから、國內で何等かの形の輸送力を浪費することは、究極するところ、第一線への彈丸の輸送をそれだけ妨げたことになるのである。

即ち、單に輸送力といふ面からみても、國內における我々の生活は、單に我々個人の生活ではなくて直接第一線の戦闘と繋がりをもつてゐるのである。次ぎに貯蓄の面からこれをみよう。

米英を撃滅するのに必要な兵器も、彈藥も、我々の手許にある金が節約され、貯蓄されてはじめて出來るのである。無駄に浪費したとすれば、第一線に送る武器彈藥を國內で無駄に消耗した結果となる。戦争遂行と無關係と思はれる物資の消費も、それを生産する生産力といふ點からみれば、武器彈藥の生産力に影響し、第一線の戦力に影響する。

我々の持つてゐる金や物は、今日ではもはや單なる金や物ではなくて、第一線將兵が一刻も早く、できるだけ澤山欲しいと待ち焦がれてゐる兵器であり、彈藥なのである。

以上、單に輸送力と貯蓄の例をあげたに過ぎぬが、同様にどんな面からみても、我々の生活は戦争と直接の繋がりをもつやうになつて來てゐるのである。否、繋がりを持つといふより、むしろ、我々の生活の如何が第一線の戦闘を左右すると言ふべきであらう。言ひ變へれば、我々の生活自體がとりも直さず戦争なのである。従つて、われ／＼はこの意味において、我々の個人的經濟に存在する經濟力まで、

すべて戦力化することが必要なのである。かうして戦力を造出することが戦ひの生活であり、戦ひの道である。

今日では世界中のどの國の生活にも、戦争の影響は及んでをり、中立國の生活は勿論のこと、世界中の誰れ一人——胎兒でさへ——戦争の影響を免れ得ないといはれる。

従つて戦争下における各國の國民生活は、いづれも不自由なものであり、贅澤な生活を続けるために戦争をしてゐる敵アメリカでさへ、「戦争に勝つ爲めに」と稱して生活程度の切り下げを強行してゐるほどである。

英國では、クリスマスにも食糧の特配は何もなかつたといふ。重慶の國民生活の慘憺たる情況はこゝに改めて述べるまでもあるまい。燃料不足のソ聯の冬の姿も惨めである。

生活の不自由は、全世界の國民が忍んでゐるのであり、敵英國や重慶の國民すら、數年に亘つてこの不自由を堪へ忍んで來てゐる。

われ／＼日本國民としては、單に消極的に生活の不自由を堪へ忍ぶといふのではなく、積極的に戦争生活を戦ひ抜き、今こそ日本の威力を發揮しなければならぬのである。そこにのみ、戦争生活必勝の道が見出されるのである。

われ／＼は、支那事變頭初における敵の豫想を見事に裏切つて、逞しくも六年半に亘る戦時生活を立派に戦ひ續けて來た。このことは、われ／＼にこよなき経験と無限の自信とを與へるものである。

過去六ヶ年に亘つて支那事變を遂行して來た日本が、その國民生活は微動だにせず、更に米英に對し

て敢然戦ひを宣して、あの大戰果をあげたのは何故であらうか。敵米英が依然物質の優勢を恃んで、これによつて日本を破り得るものと考へて、戦争を續けてゐることは、敵米英がその理由を未だに解してゐないことを示してゐる。

その理由を一言にしていへば、大東亞戦争は、日本にとつては、生きんがための最後の自衛戦争であり、敵にとつては贅澤な東洋制覇を續けようといふ侵略戦争だからである。即ち戦闘精神において雲泥の相異があるのである。正義は必ず勝つ——われ／＼は皇國三千年の傳統に輝く日本固有の國民精神の上に、必勝の信念に基づいて戦つてゐるのである。この形なき強みを見逃がした點に敵米英の誤算があるのである。そしてこの強みは、生活の戦ひにおいても餘すところなく發揮されねばならない。

神州の國土を汚さうとする黒船を撃攘した尊皇攘夷の血は、今もなほわれ／＼の血管に脈膊つてゐる。前線で、空からは空爆、陸からは巨砲の猛射を浴びて死闘を續ける將兵は、幾十日の間、飲むもの、食ふ物の不自由に堪へて、しかも一言もこれを口にせず、人道の敵、米英の撃滅のみを念願してゐるのである。

戦場において、常に見事な行動をする日本人にとつて、銃後においてもまた、逞しい戦争生活が出来ない筈はない。戦争生活の實踐——銃後の生活が既に戦争の一部であり、戦争が國民生活の中でも戦はれてゐる今日、全國民が第一線の戦場にあると同じ氣持、滅私奉公の覺悟を以て、戦争生活を戦ひ抜くことが最も必要であり、年頭に當つてわれ／＼は戦場精神を以て戦争生活に徹する決意を固めようではないか。



新年の戦局に對する觀察

陸軍省報道部

昭和十八年、この新年こそは我が國三千年の運命を決すべき年として、あらゆる意味で一億國民が、一大覺悟をもつて臨まなければならない年である。次に現下内外の情勢、特にわれ／＼として着意すべき要點を説明し、さらに本年の戦局の推移を考察し、われ／＼が如何なる覺悟と、如何なる態度をもつてこれに處すべきかについて述べよう。

緒戦の戦果の意義

緒戦における赫々たる戦果によつて、わが軍は、戦略的に、絶大の價値を有する南方地域を、その掌中

に收めた。

開戦頭初、憂慮されてゐた問題は、米英を相手に果して順調に南方作戦を遂行できるかどうか、また、南方を占領後、果して建設、開發がうまく進むであらうかといふこと

であつたが、それは杞憂に終り、今日までのところ、極めて順調な足取りをもつて進んでゐることは、國家のためまことに慶賀に堪へないところである。

かやうに偉大な戦果を、しかも短時日の間に收めた戦史は未だ嘗てなく、まことに喜ばしい限りである。しかし、こゝに注意を要するのは、緒戦の勝利が爾後の戦争遂行を容易にすることは確かであるが、しかし、それは必ずしも戦勝を意味するものではないといふことである。これは前

ヨーロッパ大戦において、ドイツ軍が緒戦で世界を驚倒させる程の赫々たる戦果を收め、勝つた／＼の連続であつたが、このために國內は、眞の總力戦體制、長期戦體制の確立に對する熱意を缺き、作戰當局や政府當事者もまた大局的な判断を過まり、方策に徹底を缺いたため、結局、戦略的、戰局的に極めて不利な状況に陥り、遂に戦ひに勝ちながら、戦争に敗れざるを得なかつたといふことによつても明らかである。

故にわれ／＼は、この赫々たる戦果の價値を、戦争全局から十分考察することが必要である。

まづ戦局的にみると、帝國は開戦前におけるA・B・C・D

對日包圍陣を突破撃碎することに成功した。しかしこれをさらに大局からみると、未だこれを完全に分斷するまでには達してゐないのであつて、現在もなほ敵の航空包圍圈内にあるのである。従つて、大東亞戦争に必勝を期すためには、米本國に對する我が攻撃據點の獲得を要することは勿論、東亞に對する敵の進攻作戦を覆滅し得る態勢を確立することが必要である。

ところが、敵は却つて濠洲を對日進攻作戦の前進基地として重視し、これが連絡保持のためには、全力を傾注するのを厭はない現状である。現に昨年八月以來、ソロモン方面において大激戦が展開されてゐるのはこのためである。また英國覆滅のためには、單に東亞の根據地シンガポールを占領するにとどまらず、さらにインド或ひは濠洲に對する徹底的な方策を必要とするのである。

かやうに考へると、現在の我が戰略態勢は、守るには概ね足りるが、攻めるにはなほ十分ではない體制ともいへるのであつて、われ／＼は今後とも一層この敵包圍陣の突破に邁進すると共に、敵を屈服させるために、あらゆる積極手段を講じなければならない。

次に資源關係からみると、開戦前においては、米英蘭の対日一齊經濟封鎖によつて、帝國は日に／＼と窮乏状態に陥り、生存の脅威をひし／＼と感じてゐるのであるが、これは南方作戦の斷行と、その成功によつて危険状態を脱却することが出来、今日においては、最早や対日經濟封鎖なるものは全く痴人の夢にも等しいことになつたのである。しかしながら、この豊富な南方資源も、これを現在大東亞戰爭遂行のための戦力へ編入するためには、船腹その他の制約を受け、直ちにその價値を十分には發揮できない状態である。

以上、戦果の價値を、戦略、資源關係からみたが、これによつて明らかたことは、緒戦の戦果の偉大であつたことはいふまでもないことであるが、しかし、大東亞戰爭の完遂といふ戦争全般からみると、この赫々たる緒戦の戦果も、單なる序幕に過ぎないといへるのであつて、戦ひは正にこれからなのである。

米英の戦争遂行能力

敵米英・重慶の戦争遂行能力については、既に各方面の

權威者が詳しく述べてゐるので、こゝでは極く簡単にその要點を述べよう。

米國

は、歐洲戰爭の勃發以來、參戰の機運が昂まると従つて、次第に軍備充實に對する熱意を昂めつゝあつたが、大東亞戰爭の緒戦において我が軍のたぬ痛撃を受けるや、さらに一段と軍備の擴充強化に狂奔し、特に緒戦における我が戦勝の基因が、整備された優秀な航空勢力にあることを痛感し、軍備充實の主眼を航空機の生産においてゐる。そして、このために年産五百萬臺といはれる自動車工場の運轉を停止し、これを全部飛行機工場に振り替へ、また不足資源を中南米に求めるなど、徹底した政策を斷行してをり、現在すでに飛行機の月産は五、六千機といはれ、特に重爆撃機と長距離輸送機には相當の力を入れてゐるとのことである。

またこれと並行して、造船においては航空母艦の建造に、これまた必死の努力を拂つてゐる。しかし純航空母艦の建造には、相當の長年月を要するので、既に建造中の巡洋艦、高速度商船を改造して航空母艦の代用に充て、目下改造中のものは八十數隻にのぼると傳へられてゐる。

なほ、米國現下の最も苦痛とするところは、船腹の不足であつて、商船の建造に對しても絶大な努力を拂つてゐる。かやうに米國の生産力は、目を逐つて絶大なものとなつてゐるが、しかし米國內には、各種の困難な問題が潜んでゐることを見逃がすことは出来ない。即ち資材、熟練工の不足、配給の不圓滑、政府内部の意見の對立等がみられるのである。次に

英國

の戦力はどうかといふと、差當りは概ね現状を維持することであらうが、しかし、制海權と屬領植民地の喪失、さらに海上輸送力の減退に伴つて、その戦力は次第に低下せざるを得ないものと思はれる。敵米英の戦力は我が國と同様、その海上輸送力に依存することが極めて大きいので、樞軸國側による商船の撃沈は、戦争遂行に至大の支障を與へてゐるのである。しかし、今年後半期以後における米英の戦力能力は、相當に上昇するものとみなければならぬ。従つて、米英の戦争遂行能力の前途は、決して過小評價することは出来ないのである。

重慶の動向と抗戦力

重慶の戦力は、大東亞戰爭以來、一段と低下してゐるものやうであるが、今なほ依然として消極的な抗戦能力をもち、大東亞戰爭の遂行上、一つの障礙をなすことは今後とも變りないであらう。唯一の海外援路ルートであつたビルマが、わが軍によつて占領され、援路は實質的に全く遮断されたにもかゝらず、重慶が今日なほ依然として抗戦を続けてゐるのは、支那の特質によつて自力抗戦體制が概ね確立されてゐること、蔣介石を中心とする民族意識が相當昂揚されてゐることに、その基因があるものと認められるが、また一つには、米英の最後の勝利を盲信し、蔣介石はもとより、支那民衆はこれによつて遠い將來に一樓の光明を認め、米英側の抗日第一線に狂奔してゐることにもよるのである。

従つて、海外からの物質援路が全く遮断されたとしても、尋常一様の手段では簡単に我に屈服することは先づないものと考へなければならぬ。そして今後、敵はいよいよ自力抗戦體制の強化を圖り、特に米英の戦力の向上に伴

ひ、援護の復活に努めると共に、次第に米英の対日航空作戦を促進強化することであらう。重慶軍は現在もなほ、約三百ヶ師一百万の兵力を擁し、蔣介石の統率は今なほ相當のものやうで、その抗戦能力は絶対に輕視することは出来ない。以下さらに支那大陸の戦況について詳しく述べてみよう。

一年間の戦果

對米英戦争が起つたならば、支那大陸にある日本軍は、南方へ相當兵力を割かれることであらうから、在支日本軍の戦力は低下せざるを得ない。これはうまいことになつたと喜んだのは重慶である。この情勢の裡にわが支那派遣軍は、南方作戦軍の背後を安全にするため、防禦に立つことなく、常に敵の機先を制して攻勢的に任務を解決してゐる。

即ち北支方面では、昨年八月下旬から各兵團の緊密な連携の下に、殘存共產黨軍の討伐、肅清作戦を展開、また中支方面では、五月以降四ヶ月に亘り浙贛作戦を實施した。即ち、我が軍は困難な地形と悪天候とを冒し、對日空襲を

企圖する浙江、江西、福建方面の敵航空基地を覆滅すると共に、敵第三戦區に對し大打撃を與へてその反攻を完封し、さらに重要な資源地域を管制下に收める等の大戦果を擧げたが、この間、兵團長酒井中將の壯烈なる戦死をみた。

大東亞戦争勃發以來、一ヶ年間に於ける支那戦線の主要作戦は、中支における浙贛作戦を始め北、南支ならびに蒙疆の各域に亘つて實に五十回を敵へた。即ち十二月四日の支那派遣軍發表によると、一ヶ年の交戦回数は約二万五千回、月平均二千回、即ち一日平均七十回弱の戦闘が行はれたのである。この間の交戦兵力は延數約三百六十万であつて、あたかも重慶軍兵力三百万、中共軍および遊撃隊六十万を加へた數字に相當し、在支敵軍の總兵力を一人残らず戦闘させたことになるのである。なほ、敵の遺棄死體は總數約二十八万、捕虜約十二万三千、肉獲兵器、迫撃砲五十ヶ師分、小銃四十八ヶ師分、輕機十八ヶ師分、重機十ヶ師分の尠大な數字を示してゐる。

この戦果の數字から敵戦力を判断すると、敵の戦死數と捕虜との比率は四十四パーセントになり、これを前三年に比べると、昭和十五年度は十二パーセント、同十六年度は

二十九パーセントを示し、かやうに捕虜が逐次増加の傾向にあることは、敵軍の戦意の低下を如實に示すものといはなければならない。

この敵遺棄死體と捕虜以外の敵兵力の損耗を、過去の比率から推算すると、戦傷二十万、逃亡三十万、その他（餓死、老衰、淘汰等）六十万、大東亞戦争勃發後一ヶ年間の敵兵力の損耗總數は、實に百五十八万三千に達し、在支敵軍總兵力の四十四パーセントを直接または間接に撃滅したことになるのである。

重慶軍の現有勢力

重慶陸軍の現有兵力は
中央直系軍 約六十ヶ師
同 傍系軍 約五十ヶ師
地方軍 約百五十ヶ師
地方軍内譯 晋東北軍十四ヶ師、晋東軍十三ヶ師、山東軍八ヶ師、山西軍二十五ヶ師、四川軍二十四ヶ師、雲南軍六ヶ師、廣東軍十五ヶ師、廣西軍十三ヶ師、陝西軍五ヶ師、寧夏軍四ヶ師、甘肅軍六ヶ師、青海軍一ヶ師

新編または不明軍約五十ヶ師

これ等の大部分は、各戦區に配備され、わが第一線と近く相對峙してゐるのであるが、各戦區の配備狀況は、次ぎのやうになつてゐる（括弧内は戰區司令官）。

- 第一戦區（蔣 鼎文） 河南、山西
- 第二戦區（閻 錫山） 山西
- 第三戦區（顧 祝同） 浙江、福建
- 第四戦區（張 發奎） 廣東
- 第五戦區（李 宗仁） 湖北、河南
- 第六戦區（陳 誠） 湖北南部、湖南北部
- 第七戦區（余 漢謀） 廣西
- 第八戦區（朱 紹良） 甘肅、綏遠
- 第九戦區（岳 岳） 湖南、江西

このほか四川、貴州方面に約十萬、わが占領地域内の兵團は、北支方面に四、五十萬、中支方面に二、三十萬、さらに獨立師、騎兵師、共產軍（北支二十五萬、中支五萬と稱される）、多數の民兵がある。

大本營發表によると、わが軍の不斷の掃蕩戦によつて支那五ヶ年の綜合戦果は、敵の遺棄死體二百三十八萬、死

傷、逃亡、歸順などを加へると、その損失は少くとも五百万以上と推定されるのである。もちろん、敵は殆んど無盡蔵といはれる人的資源を有するから、この膨大な損耗も一應回復し得る可能性があるものと認めなければならぬ。

在支米空軍

米國の在支空軍は、昭和十六年の春、比島米空軍司令官クラゲット少将が大統領ルーズヴェルトの特使として重慶を訪れた時に端を發してゐる。當時は、もちろん、大東亞戦争の勃發などは想像もされず、約二百名の米航空將校たちは、一つは好奇心からと、一つは報酬目當てに應募したのであるが、目的地に到着するや否や、大東亞戦争の勃發となり、否應なしに日本空軍相手の空中戦に参加させられることになつてしまつたのである。

日本軍のため空軍を徹底的に叩き壊されて困つてゐた重慶當局が、米飛行機が来たので如何に喜んだかは想像に餘りある。彼等を非常に優遇し、また大いに期待をかけたのはいふまでもない。しかし、米飛行將校達は重慶に来て、聞くところによるとの甚だしいのに驚いた。それに支那派

遣軍が行つた浙贛作戦によつて、對日空襲作戦に適する飛行基地玉山、麗水、衡陽等は次ぎ／＼に破壊され、米空軍は湖南、廣西等の奥地に退避した。

しかし南方要域の悉くが日本軍の手に歸し、東亞から撤退せざるを得ないことになつた米國にとつて、日本に對しとり得る戦術としては重慶軍、殊にその空軍を増強して對日ゲリラ戦を実施する以外にはない。いはゆる空軍による對日第二戦線の結成である。

すなはち、これまで重慶の哀願によつて、僅かに送られてゐた米空軍なるものは、今ではその性格を一變し、米英自身のために必要な第二戦線的な役割をもつことになつたのである。従つて、米國軍備の充實に伴つて派遣される飛行機も次第に増加して来てをり、現に昨年六月下旬から十一月中旬までに、我が占領地へ二十五回も敵機が襲來してゐる。もちろん、我が航空部隊はその都度これに猛撃を加へ、現に敵機五十機を撃墜破してゐる。

なほ、米國から重慶側に送られる飛行機は、今のところ、南米ブラジルの東端ナタールから大西洋を横斷、アフリカのダカール邊を通つて、西亞に出て西亞からインドを經

由、重慶に出て来るものが多く、十二月現在で活動中のものは百數十機であり、これに重慶空軍を合せると、敵勢力は約二百五十機内外と推定され、その機数は、今後も引き続き増加するものと思はれるが、今後は我が占領地の要點、さらに進んで、わが本土にまで空襲を企圖すること萬なしとは／＼へないのである。

敵側の戦争指導

米英としては、緒戦の敗戦は、日本の奇襲作戦によつてやむを得ず蒙つたものであつて、いはゞ戦争の序幕に起つた一つの出来事に過ぎない。戦争全體としてみれば、これがために何ら敗けたのではなく、勝負は正に今後にあるとして、眞剣にこれが打開策を考へて實行しつゝある。物質力、備軍の彼等は、日本は緒戦において相當の戦果を収めたが、今や戦力の増強はもろんのこと、その補充維持さへも困難に陥らうとしてゐるのに反し、米國は豊富な物質と莫大な工業力によつて急速に生産力を擴充し、絶對優勢の軍備を整備できるから、最後の勝利は必ず我にありと信じ、この考へを基調として國民の指導と生産力の擴充

に狂奔してゐる實情である。

従つて米英側の戦争指導は、その戦力充實に伴つて次第に各方面の作戦を積極化するものとみられる。しかも東亞においては、差當り蔣介石に、日本が占領地域を確保開發して戦力を増強することを妨害させ、また將來、攻勢の據點を奪回するために濠洲を強化し、或ひは太平洋上の島々に反撃を行ひ、また支那の空軍を強化する一方、海上航空路線を強化し、この間に機を見て我が本土空襲を企圖するものと豫想されるのである。

今日、ソロモンの海戦は、その一つの序幕であると思られる。また一方、獨伊に對しては英ソに對する援助を強化し、アフリカ、西アジア方面からする包圍態勢の確立に努め、現に昨年十一月初旬には、相當の兵力をもつて西アフリカに上陸作戦を敢行したのである。かやうに米國は東亞とヨーロッパの戦場に進出し、攻勢作戦を指導してゐる現状である。

また一方、政略的にソ聯を利用し、ソ聯を對日壓迫の具に利用しようと各種の謀略策動をしてをり、従つてこの方面においても、われ／＼としては深甚な關心をもたなけ

ればならない。

我が戦力擴充の急務

かやうな状況の下において、わが陸海軍は大東亞に絶對必勝の態勢を確立すると共に、敵の反攻作戦を隨所に撃破しつつ、北はアリューシャンから滿洲、支那を経て、南は帝國領土に約七倍する南方占領地域に亘り、また太平洋上においては南洋群島その他數多の島嶼の守備を擔任し、陸海軍の責務はいよゝ重きを加へてゐる現狀である。

緒戦の戦果によつて大東亞の要域を悉く占領し、必勝不敗の態勢を占めた今日、爾後の戦争指導は極めて有利な態勢にあることはいふまでもないが、尨大な生産力を基礎として、併々と強化されてゐる敵の軍備に對して、わが國もまた極力戦力を充實強化し、敵を徹底的に撃破しなければならぬ。この戦力擴充の基礎は、いふまでもなく生産力の擴充にある。

ところが、わが國の生産力は開戦以來、特に船舶輸送の關係上、十分に整備する途がなく、作戦の進展に必ずしも即應し得ず、絶對に樂觀できない實情である。豊富な日滿

南方の資源そのものは、持てる國、米英に對して何等の遜色もないばかりか、錫、ゴム等の熱帯資源は、却つて敵を壓倒してゐる程であるが、この資源を開發し、これを輸送し、明日の戦闘に必要な飛行機、戦車、艦船、火炮を生産しなければ、何等の効果も發揮することは出来ないわけである。このため政府、軍當局では、生産力の擴充のためにあらゆる手段方法を講じてゐるのであるが、これには一億國民の營利、個人主義を脱却した崇高な國家觀念に基づき御奉公に俟たなければならぬ。

戦争體制の確立

以上、戦争の現段階はどんな態勢にあるか、また今年十八年が如何に重要な意義を有するかといふことを概ね明らかにした。ところが、世間には既に作戦段階は終結し、建設の段階に至つてゐると考へ、今後は戦後の政策に着手すべきであると説き、或ひはまた戦争は長期戦であるから、さう急に政策を急遽に處理しなくてもよいといつたやうに、時局の認識を缺くものも少なくない。

近代戦争の特質は、常に作戦と建設が並行することに對

るのであつて、作戦の頭初から作戦のための建設の諸政策を進めることが必要である。特に大東亞戦争は、その戦争の原因からしても、その必要が痛感されるのである。現に南方のみならず支那方面においても、敵軍を掃蕩する一面、他方では各種の開発建設が進められてをり、特に南方では、敵潜水艦の出没する中を往來せざるを得ない實情であつて、戦闘のための建設であるといふ觀念に徹しなければ、到底この困難な建設を進めることは出来ないのである。即ち總ての政策は、作戦を強化させ、作戦遂行を容易にするための一點に集中しなければならぬのである。

次に大東亞戦争が長期戦であることは、避けることの出来ないことであるが、その長期戦の意味に對して多少誤解をもつてゐる者が多いではない。即ち、この戦争は緒戦において既に雌雄を決する大決戦を終つたから、決戦は二、三年後または数年後に行はれ、それまでは單にゲリラ戦か小戦のみが繼續されるに過ぎないと假定するものがある。

しかし現在、南太平洋、ソロモンの戦闘は、八月以來、渺たる島嶼をめぐつて日米兩軍の大激戦が展開されてを

り、作戦中の我が將兵は、悪疫、瘴癘の地に飢餓と闘ひ、衰弱、マラリアと闘ひ、肉を食ひ、骨を削る辛苦を味はひつゝ死闘を繰返してゐるのである。この戦局の發展如何によつては、日米兩國の運命をも決定するかも知れない重大な性格を有するのであつて、一寸の油斷も許さない實情である。かやうに長期戦とはいへ、大東亞戦争は常に大小の決戦が連続するのであつて、單なるゲリラ戦の連続とは全く趣きを異にするのである。従つて、生産力の擴充と、國內の體制を全力を奮つて急遽に整備しなければ、ひとたび不利な態勢に陥つた場合、急にこれを挽回することは、非常に困難になるのである。

それにもかゝらず、最近、わが國の生産能率はやゝもすると低下の傾向にあるのであつて、これには資材の不足、食糧問題、交通運輸、徴用、賃金その他各種の問題が原因してゐるとはいへ、緒戦以來の戦勝に押れ、精神の緊張を缺くのに原因してゐることも見逃がすことは出来ない。戦争の苦難はいよゝ國民生活に影響する今日、眞に國民の一人一人が誠私奉公の念に燃えて、生産擴充に努力するのでなければ、どんなに機構を整備し、どんなに法規を改め

ても、實行は期し得られないのである。

必勝の信念を確立せよ

この大戦争を遂行するに當つて、われらの前途に絶大な苦難が横たはつてゐることは當然であつて、これを排除するための努力を厭ふならば、絶対に最後の勝利は期し得られないのである。また我々が苦しい時には、敵はわれ以上に苦しいものであるといふことを考へなければならぬ。なほ、米英の物質力に恐れをなして、戦争の前途に根柢のない杞憂を抱く者もないではないが、そも、戦力は、物的威力の外に、統帥、指揮、人的要素、地勢等を綜合したもので、わが國が適當な對策を講じ、國內態勢の強化を圖れば、今後相次いで起るべき對日反攻を斷乎として撃滅し、遂には米英の戦意を喪失させ、戦争の完勝を圖り得ることは當然である。

大東亞戦争は漸く精戦の域を脱し、今年はいよいよ本格的な段階に入つたのである。戦争は一つに我等一億國民の活動如何によつて決せられる。今後、苦難はますます加はり、激闘はいよいよ熾烈の度を加へ、従つて昭和十八年は、

時期的にみて大東亞戦争の山ともいふべきで、これに對處するためには、全國民の總力を捧げて御奉公しなければならぬのである。

「頼母」の戦争生活例募集

週報、ラジオ共同企画の頼母らしい隣組生活例は各方面の要望であるので、新年を期して出題の範圍も擴大して「頼母らしい戦争生活例」として再出發をなし、決戦下の力強い戦争生活指針たらしめることにしました。御協力を願ひします。

一月の出題

一 隣組で軍需や職、豚などを共同飼養してゐる實例
二 戦争生活の中でお子さんまどう絆けてゐますか
原稿 四百字語二枚

切 一月十三日(水)

宛 名 東京市麹町區内幸町日本放送協會演説部「戦時生活相談係」

發 表 週報一月二十七日號及び一月二十三、二十五兩日のラジオ

応募に關 應募原稿には、住所氏名に振假名をつけて、職業、年齢はつきり書入れて下さい。採用分には薄謝を呈します。なほ應募原稿は一切お返ししません。



今年こそ激戦の年

大本營海軍報道部

大東亞戦争第一年における戦ひは、目覚ましい速度を以て進展した。緒戦の一撃において米太平洋艦隊主力と英東洋艦隊主力を撃滅し、更に一月にはマニラ、二月にはシンガポール、三月には蘭印と、疾風掃葉を捲く進撃は、大東亞戦争の如き廣大な規模をもつ戦ひにあつては極めて快速なものといへよう。同時に緒戦における戦國が、我が海軍機二十九機と五隻の特殊潜水艇の犠牲によつて米太平洋艦隊を屠り、さらに我が海軍機三機の犠牲によつて英海軍の二戦艦と驅逐艦一隻を撃滅するといふ大戦果を擧げたことは、なほ我々の胸裡に強い印象を残してゐる。

昭和十八年を迎へ、一年前のこれらの戦果を再び心に摘録した所以は、實に今年こそは、いつまでもかかる戦果に酔つてゐてはならぬことを強調せんがために他ならぬ。過去における熾烈な戦ひを通じて、大東亞海において、米英を徹底的に撃滅し去る必勝の構へとその足固めが出来上つた。ガダルカナル島を中心としたソロモン海域の戦國は、昨年八月、アメリカの反攻によつて開始されたが、注目を要するのは、それ以來の戦ひの速度が、開戦後半戦までの速度と異つて、その相貌を一變したことである。例へばソロモンを一例にとれば、開戦後半戦で我が作戦

線は三千哩の同海域まで伸びたのであるが、ガダルカナル島周辺の戦闘が開始されて以来、同島周辺の戦闘はほぼ同じ水域において半歳に亘り激烈な戦ひを繰返してゐるのである。

もちろん、戦争の進力は、攻略の進度のみによつて測定するわけにはゆかない。ガダルカナル島周辺に半歳に亘つて展開された激戦の結果は、同方面に全力を傾けて出撃し來つたアメリカ海軍兵力を徹底的に撃滅することになり、アメリカにとつて如何に痛撃であつたかは想像し得る。我はこゝに戦ひの質的變化を見なければならぬ。もしも開戦後半歳間の攻略の速度と、その間における我が飛行機三機の犠牲による英東洋艦隊の戦艦、驅逐艦等三隻の撃沈に現はれた如き被害の犠牲率を當然の戦果と考へるならば、それはあまりにも安易であり、寧ろ危険といはなければならぬ。大東亞戦争の形態には、ガダルカナル島周辺の水域における激戦を見るやうに、双方が多大の犠牲を拂つて同一地域の争奪に全力を傾注する凄壯な戦闘もあるのである。

さて、本年の戦ひは、如何なる形において現はれるかといふことは、もちろん輕々に即断することは許されぬが、

たゞ新春に當つて、以下に説く如きアメリカの反攻を豫想するならば、戦闘方式は種々ではあるが、闘ひは常に激烈を極めて、凄壯なる決戦が相次ぐことを我々は覺悟しなければならぬのである。

二

戦前、アメリカではスターク案による甚大な海軍擴張案が計畫されてゐた。同案が實現すれば六百万トンを超破する強力な艦隊が、海上に配されることになつてゐたが、アメリカはその一應の整備の時期を一九四四年(昭和十九年)に置いてゐた。

スターク案の建設に伴つて、航空兵力、商船隊の整備もまた充實されるやうに計畫された。既に第一次歐州大戦の経験に徴し、國內のあらゆる生産設備を合戦態勢に切り替へることに想像以上の能力を持つアメリカは、第二次歐州大戦の勃發、さらに大東亞戦争の開始によつて、國內生産力を合戦態勢に總動員し、各種の生産能力は著るしく促進されるに至つた。

その結果、一九四四年頃を目標としたアメリカの生産力は、一九四三年夏頃を以て頂點に到達するに至る情勢と

なつた。

アメリカ政府が、ハワイ海戦、フィリピン喪失等の責任を追究された時、一九四三年こそアメリカ總反攻の年であると國民にいつたことを、これに聯關して我々は今一度ここで想起すべきである。

アメリカの反抗は極めて熾烈である。既にガダルカナル島周辺の幾多の海戦に見るやうに、叩かれても、敗れても、アメリカの新型各種艦艇は續々と同方面の戦闘に繰り出された。

竣工まもない戦艦、或ひは就役まもない巡洋艦が、ソロン水域に續々と出撃して、それが遂に同水域における相次ぐ凄壯な決戦の連鎖を促した過去を回顧する時、本年におけるアメリカの激闘振りが十分想像されよう。

またアメリカは第一戦の戦争に、生産戦を取り入れることを強行しようとしてゐる。我が果敢なる攻撃精神の太刀先を、強力な生産戦によつて受け止めんとする傾向が強い。即ちガダルカナル島周辺水域の戦ひにおけるが如く、アメリカの反撃は執拗を極めたが、その都度撃退されるや、やがてその窮通の道を生産戦に求めんとした。アメリカは第一戦の敗北を生産力によつて隠蔽し、消耗戦によ

つてやがて頽勢を挽回するであらうといふ宣傳戦を開始した。

これはアメリカの損害發表の手際をみれば明らかである。アメリカは自國艦艇の喪失を數ヶ月後に小出しに發表する一方、これと同時に數隻の艦艇の進水と發表して、撃沈による打撃を偽脱してゐる。

かゝるアメリカの消耗戦を、我々は決して恐れる必要はない。アメリカは一隻を喪失する間に數隻を造ると宣傳してゐるが、我々はそれを否定せぬまでも、海軍力の強弱は量のみによつて決定するものではないことを確信してゐる。實戦において海軍將兵の訓練、素質、精強が、いかに勝利の歸趨に重要な要素となつてゐるかは、既に幾多の海戦が實證するところである。

だが、また一面、近代戦の特質は相殺にあることを忘却してはならない。

例へば航空母艦の戦ひのやうに、海戦に臨んでは、敵艦を撃つか、しからず我が方が傷つく相殺戦は、近代戦の特質として不可避である。また航空戦においても多數の敵艦を撃墜するばかりに、我が方の犠牲もまたやむを得ない。開戦後一年間における敵機撃墜三、七九八機以上に對

して、我が方もまた自爆および未帰還五五六機といふ多数の犠牲を出した。

このやうな近代戦を考へる時、生産戦はまた近代決戦に不可欠な要因を成してゐることが判然とする。逞しい攻撃精神が遺憾なく發揮されるためには、兵器の優秀、強大な生産量が絶対に必要である。即ち攻撃精神は、これらに裏付けられることが極めて必要なのである。

アメリカの生産力を恐れる必要はないが、生産戦を輕視してはならない。

ソロモン水域におけるやうな、執拗且つ連続した激戦を最後まで勝ち抜くためには、我々もまた一面、果敢な生産戦を戦はねばならぬのである。しかも今年はアメリカの生産力が最高度に發揮されることを念頭にすれば、今年こそ我が生産戦もアメリカに對して決戦し、勝たねばならぬのである。

生産戦は各分野に亘らねばならぬのは當然である。今や戦ひは前線戦後の別なく、總てに亘つて第一線の硝煙を身近かに感ずる時機に到達した。全國民が米英徹底撃滅のために悉く戦闘に直接参加して戦ひ抜く機会がきたのである。

今年こそ總てが一層の決意を以て戦ふ決戦の年である。

國際情勢の展望

大東亞戦争第二年の新春を迎ふるに當つて、世界的情勢を大觀すると、今次戦争の長期戦としての相貌がいよいよ明確になり、事態はますます深刻複雑な様相を示してゐる。

現在、彼我の間に、北アフリカ、獨逸戦線、南太平洋の三地域を中心として、激烈な戦闘が展開されてゐるのであるが、これらの各戦線が相互に密接な關係をもつてゐることは、今次戦争の世界的性格を示すものである。

開戦第一年における日本の輝かしい戦果は、歐洲大陸における獨逸を始めとする樞軸諸國の優勢と共に、世界に公正な新秩序を創設しようとする雄大な企圖の礎石を築いたもので、浮薄な樂觀論を以て戦争に臨んだ敵米英は、いまや日暮れて道遠しの感慨に打たれてゐることであらう。

つて来た敵は、今なほ最後の勝利を夢想し、樞軸陣營の強力な戦線の關係を求めて血路を切り拓かうと狂奔してゐるのである。

いま、敵米英の情勢をみるに、米國は我が國を侮り、容易に日本を屈從させ得ると考へてゐたため、開戦當初は物心両面において混亂を極めたのであるが、大統領ルーズヴェルトは、自己の獨裁權を強化し、經濟機構の戰時體制化を促進して、軍需生産の強化に充て一路邁進し、他方、樞軸國に對する敵愾心を煽動して、國民の士氣昂揚に相當の成功を収めたものゝやうである。

また、對外的には、軍事上、經濟上、英國との連繫をますます緊密にし、汎米主義を振りかざして、大陸共同防衛といふ空念佛によつて、中南米諸國を自己の傘下に糾合しようとする努力をして来たのであるが、米國の經濟的、

情報局 國民演劇脚本入選發表

國民演劇の樹立を促進して、大東亞戦下に演劇の力を最高度に發揮させるためには、優秀な脚本をつくること最も必要なことなので、情報局ではこの一方策として、昨年度に引續き本年度も廣く一般から脚本を募集したが、その入選作が左の通り決定した。

募集脚本總数は一七五篇、昨年度の二三篇より四期三分の増加である。審査の結果、情報局總裁賞に該當すべき卓越した作品を見出し得なかつたが、情報局賞二篇は共に豫想以上に優秀であつたので、その賞金を倍額とし、更に藝術作品としては未だ相當の暇は認められるが、創意、技術の點において見るべきものある三篇に、今後の練習完成を期待する意味において奨励賞(賞金三百圓)を贈ることとした。

- 情報局總裁賞(賞金二千圓) 該當するものなし
- 情報局賞(賞金各一千圓) 鴻田忠元「汪精衛」 藤田達郎「たらしめ海」
- 總裁賞(賞金各三百圓) 堀田吉治「首途前」 遠間平八郎「石田三成」 森谷實「捕鯊野郎」

政治的、軍事的壓迫にも拘はらず、アルゼンチンとチリの兩國は、慎重な態度を堅持し、中立維持に努めてをり、米國の策動も未だ功を奏しない現狀である。

米英の北阿進出

反樞軸國の反攻企圖は、第一に、昨年八月七日、ソロモン群島方面への米國の出撃となつて現はれた。周知のやうに、米國は歴次の海戦に大敗を喫し、相當に手酷くたゞきつけられたのであるが、この方面の水域を戦略的に重要視する敵は、いままほ執拗に抵抗を續けてゐるのである。

反樞軸國の反攻企圖の第二は、佛領北アフリカに對する米軍の不法侵入である。この新作戦は、陸軍長官スチュムソンが告白してゐるやうに、天候が良好であつたことと、佛軍將兵の反逆とのために一時的には成功を収め、歐洲

戰局に新たな一要素を加へたことは否定できないが、これに對し、獨伊側は速かに戰略的態勢を整へ、果敢、鮮かな反撃に出たため、米英の企圖は行動開始以來、僅々一ヶ月で停頓状態に陥り、敵が當初、計畫してゐた歐洲大陸に對する進攻據點の確保、地中海における制海權の回復の目的を實現することは、殆んど不可能と認められるに至つた。

なほ、さらに歐洲大陸を擾亂しようとして打つた對佛謀略は、完全な失敗に終り、却つて佛國內の異分子を清掃し、佛國と樞軸國との協調を強化する結果を生んだのである。また北阿において米國が擁立した佛國の叛將ダララの地位は、英國が支持してゐるド・ゴール派の嫉視を招き、こゝに米英は、はしくも利己主義に基因する確執を全世界にさらけ出すことになつたのである。

軍需生産増強に必死

要するに、米英の北阿進出は、極めて大きな野望を包蔵するものと認められるから、われ／＼は絶えず、その成行を注視して警戒を怠つてはならないが、他面、米英は今後、長距離に亘る兵站線を確保して補給する必要に迫られてゐるため、この作戦は米英に對し高價な犠牲を強要することであらう。

米國は目下、軍備擴充、軍需生産の増強に全力を傾倒してゐるが、これは「民主主義國の兵器廠」として反樞軸諸國へ武器を供給すると共に、他日、日本に對し全面的な攻勢に出ようとする準備と解せられるのである。

擊に對して、建艦計畫を一部變更し、また商船の改造等を行つて航空母艦の建造に振替へたり、航空機の増産に必死の努力を注ぎつけてゐることは注目に値する。もちろん、彼等の老大な軍備擴充計畫が文字通り實行できるとは思はれないが、その計畫が相當程度まで實現されるものと豫想しなければならぬ。

而米國政府は、急激に軍需生産を増強しようとして強行策をとつたため、今や國內いたる所に彼等の嘗て経験したことのない矛盾と、混亂と、窮乏が生じ、米國民は「平和時代の脂肪肥りから筋肉だらけの體軀になりつゝある」(戰時情報局發表の報告書「國內概況の一ヶ年」と傳へられてゐる。

かやうに無理算段をしてまでも、米國は世界各國に人と物をばら撒いて、戰爭指導の主人公としての地位を獲得し、戦後の世界經營を一手に牛耳らう

と考へてゐるのである。

すなはち、ニューヨーク・タイムス紙の所報によると、東亞、西亞、アフリカ、歐洲、大西洋、中南米等の世界各地に亘つて、五十餘ヶ所の基地に百万から一の軍隊を派遣してゐること、また、ルーズヴェルトの十二月十一日の武器貸與報告によると、米國は年額約百億ドルの武器を聯合國側に送り、また、戰時情報局の公表によると、米國が一九四二年中に武器、戰爭施設として投じた金額は、實に四百七十億ドルといふ老大な額に達してゐるのである。

これ等の數字の樂屋裏は、想像以上に困難なものがあり、ルーズヴェルトが議會にその對策を強要したインフレの激化は勿論のこと、人的資源に關してもルーズヴェルトは、「四十三年末には米軍は總計九百七十方の兵力を持つことにならう」と呼號すれば、これに

對し軍需産業家は、その老大な計畫を實現するには、「現在の従業者一千七百万人を更に五百万人増加しなければならぬ」と張り合ひ、限りある人的資源をこの兩者に如何に調和的に振り向けるかが、彼等の頭痛の種となつてゐる。

人的資源の不足は、勢ひ民需、農業方面の勞働力に至大な影響を與へ、棉花その他の食糧品等の著しい減産、ゴム、砂糖、コーヒー、ガザリン、織物、肉等の割當強化となり、さらに東亞からの物資流入の遮斷を受けて、嘗ての豊富な文化生活を誇つたヤンキーの生活は甚だしい零落振りを見せてゐる。その上、彼等の肩には四十二年一月から十月の間に税金百三十億ドル、國債等三百三十億ドルが重苦し「いまでにのしかゝつてゐるのである(前掲報告書所載)。

かやうな窮迫の中に、なほ、對日反攻を呼號し、無謀な北阿遠征を敢行し、國民の生活水準を切り下げて軍需生産

の増強に必死の努力を續けてゐるの
が、「民主主義國の兵器廠」の現状な
のである。

悲鳴をあげる英國

英國は歐洲における獨逸の電撃作戦
に手も足も出ず、獨逸軍の本土空襲と
封鎖に脅え、意氣は頗る昂らなかつ
た。しかも待望の米國參戰が實現する
や否や、皇軍の進撃の前に、英國は忽
ち東亞における富源豊かな廣大な領土
を喪失し、英國史上、稀に見る暗鬱な
空気が全國民を包んでしまつた。

收戦に對する國民の不滿は、チャー
チルの不信任、戦争指導方法に關する
批判となつて現はれた。しかしながら結
局、英國にチャーチル以上の人物がな
いから却つて政局の安定を來し、戦争
指導への批判からは、ソ聯の要望に呼
應して歐洲大陸に第二戦線を結成すべ
しといふ熱烈な叫びを生じた。

首相チャーチルはインドを戦争に驅
り立てるため、三月にクリップスをイ
ンドに派遣、舊態依然とした戦後に自
治賦與といふ空手形によつて、國民合
議派の説得に努めたが、全く失敗に歸
し、却つて逆に對英不信の念を醸成す
るに至つた。

一方、チャーチルは去る五月、英ソ條
約を結ぶと共に、第二戦線に關するソ
聯の不滿をなだめるため、自ら老驥を
提げて八月モスクワを訪問、英ソ連繫
の緊密化を圖つたのであつた。

しかしながら船腹の不足は、獨逸水
艦の活躍によつて、ますます激化する
ばかりで、ソ聯の要望通り四十二年中
に歐洲に第二戦線を展開することは、
到底實現できないので、ソ聯は孤立
無援、獨逸の猛攻を一手に引受け
て、難戦苦闘せざるを得ない羽目とな
つた。なほ、前記の北阿作戦によつて、
米英は一應、第二戦線の代りを實現した

もつと誇稱し、鳴物入りで宣傳し、ソ
聯邦の慰撫に努めたが、ソ聯を納得さ
せるには至らなかつたのである。

他方、英國の國內情況をみると、獨
逸水艦の活躍はますます目覚ましく、
撃沈された米英の船舶は莫大なトン數
に達し、昨年九月と十一月とは、それ
ぞれ百万トンを超破し、さらに北阿作戦
の開始等による消耗も加はつて、食糧
不足はいよいよ深刻となり、國內輸送機
關の緊迫に伴つて、國民生活に、生産
部門に暗い陰を投じてゐるのである。

チャーチルは十二月五日、ブラッド
フォードでの演説で

「戦争は最も激烈な形に迫つてゐる。わ
れわれの敵は極めて強力であり、彼等は
よしんば我々を打倒することは出来なく
ても、我々を消耗させて參らせる力があ
るものと考へてゐる」

と悲鳴をあげ、また食糧相ウールトン
も十二月七日、「英國の食糧問題は、第一

一次大戦當時の最悪の時より更に悪化
するであらう」と述べてゐる。

過去四ヶ年における英國の敗類は、
次第にインドを始めとする英國殖民地
の諸民族の離反を招いた。特にインド
では、昨年四月、クリップスの提案を
拒否すると共に、インド獨立の機運が
昂まり、従来の英國の武力への依存の
念は、皇軍のマライ、ビルマにおける戦
果によつて吹飛び、次いで七月には、國
民合議派が非政治勢力の撤退要求を決
議すると共に、ガンデー等による根強く
廣泛な反英運動の展開をみるに至つた。
インドは最早や英國の統治下にある
ことを希望せず、戦後の自由賦與の約束
にも全く信を措かず、英印關係は全く
打開の途を失つてゐる状態である。ま
たビルマ米の輸入杜絶と軍用徴發は、
インドの食糧不安と民衆の窮乏を極度
に悪化させ、英印政體は依然として熾
まぬ騷擾の解決になすところを知らず、

ひたすら強壓強化に狂奔してゐるが、こ
れは却つてインド民衆の對英憎惡の念
を強める結果になつた。

米にたよる重慶

次に米英に依存する重慶政權は、
米國の參戰に一時は有頂天になつたも
の、皇軍の疾風迅雷の進撃に却つてビ
ルマ輸血路を喪ひ、英米勢力の東亞退
却と共に、孤影悄然たるものがあつた
が、なほ抗日の愚を悟らず、米英の借
款提供と、空からする細々とした物資
援助、および西北開發による自力の培
養、米空軍の派遣等に頼りながら空し
い抗戦を豪語してゐる現状である。

なほ、久しきに亘る敗戦は、財政の
窮乏、物價の暴騰と共に、國民を塗炭
の苦しみの中に陥れてゐるが、なほも食糧
兵員の徴發に努め、過般の國民參政
會議十中全會では、財政經濟の再建を
中心に抗戦力の立て直しを圖る一方、

インド英軍と呼應してビルマの奪回を
夢みつゝ蠢動してゐるのであるが、既
に自力抗戦の力なき重慶は、専ら米國の
反撃に望みを囑してゐる現状で、これに
對し皇軍は、その機を與へず、その企て
を畫餅に歸せしめてゐる現状である。

微妙な中立諸國の動き

北阿戰の開始は、地中海の兩端を扼
するトルコ、スペイン、ポルトガルの
中立態度に微妙な影響を與へ、西亞に
新たな危機を孕みつゝあるが、特にト
ルコに對しては、米英は武器貨與を好
餌に暗躍を續けてゐる模様で、コーカ
サス戦局の進展、米軍の西亞増強と相
俟つて、この方面の情勢は今年はとく
に注目されるところである。

しかし、トルコの參戰回避の希望は
依然として強く、飽くまで中立を維持
しようとしてゐることは、イノムュー大
統領、サラジヨグル首相のしばしば強

翻するところによつても明らかである。

スペインは防共協定の参加國であつて、ジブラルタル回復の強い希望をもつてゐるが、内亂の創痍は未だ癒えず、中立維持に努力してきたが、北阿の新局面は、英米がこの方面に停頓打開の新しい手を打つ恐れがあり、西領モロッコへの脅威が加はると共に警戒を怠らず、一部動員を行つてこれに備へてゐる。

フランコ統領は十二月八日、フアン・ハセ全委員會で演説を行ひ、舊き自由主義、共産主義の排撃を強調すると共に「スペイン國民は、何ら歐洲と共通するところのない世界に属してゐるのではない」と説いたことは、今後同國の進路を示唆するものである。なほ、ポルトガルもまたスペインとの協同の下に、厳正中立を守つて戦火の外に立つやうに努めてゐる。

ソ聯は昨年五月に開始されたドイツ

の春季攻勢により、ケルチ半島、ハリコフ、セバストポリ、ロストフ、ノヴォロシ

スクを次ぎ／＼に失ひ、スターリングラードもまた危殆に瀕したが、兎に角も堪へて待望の冬を迎へるに至つた。スターリン首相は十一月六日の恒例の革命記念日前日の演説で、第二戦線が結成されなかつたため重大な困難に陥つた旨を強調したが、昨年の獨軍の攻勢によつて、その抗戦力が著るしく低下したことは否めず、従つてソ聯は、その誇示する冬季反攻によつて何等の成果も得られないであらう。

樞軸外交いよいよ緊密

上述のやうな國際情勢下に帝國は、盟邦獨伊等の樞軸諸國との關係をますます緊密にし、今後ますます東西相呼應する共同作戦の妙味が發揮されるものと期待される。

過去一ヶ年の皇軍の赫々たる戦果に

より、大東亞共榮圈における米英蘭三ヶ國の廣大な植民地は悉く皇軍の占領下に入り、原住諸民族の眞摯な協力の下に、諸建設と資源の開発は着々と進捗し、長期持久戦に堪へる基礎はますます強化されるに至つた。

さらに加ふるに、中華民國、タイ國および佛印は、衷心から我が國に協力し、東亞の天地はいよいよ明らかな光を帯びるに至り、われ／＼は何ら後顧の憂ひなく、アジア十億の民族を解放して共榮圈を確立する大理想の實現に邁進できることになつた。

しかしながら、前述の通り米英の蠢動は絶えず、豊富な資源をたのんで軍備を擴充し、反撃の機を狙つてゐる。今年こそは、われ／＼は眞の試練に遭遇する年であらう。米英の完全擊滅の目的達成のため、一億一心、生産増強に努力し、不拔の忍耐力を發揮する必要があることを痛感する次第である。

玄米食について

(附) 玄米の炊き方と食べ方

玄米食は何故必要か

戦争生活は、不自由勝ちの中から、どうして國民の生活力を維持調整し、更にこれを昂めて行くかといふことにかゝつてゐる。これがためには不可能を可能とするの決意を以て、創意と工夫とを最高度に發揮し、勝つために採り得るあらゆる手段、考へ得るすべての方法を眞剣に検討し、且つ實行に移さなければならぬ。

この時代を今まで通り惰性の生活を

續けてゐたら、早晚行きつまりが來ることは當然である。こゝにどうしても困苦忍耐と戦ひ抜く不拔の勇氣と、そしてあらゆる工夫とが要求され、その工夫によつてむしろ生活内容を高めて行かなければ、戦争に勝ち抜くことは出来ないのである。食に敗れるものは戦ひに敗れる。前大戦におけるドイツの例を、われ／＼は知らなければならぬ。

前線で勝つて銃後の生活戦争にも負けるやうなことがあつては、われわ

れは、護國の英靈に對して、何といつてお詫びしてよいかわからないのである。

現下の食糧事情……われ／＼の主食用米は非常に少なくなつた。ところが外地米、殊に朝鮮米についてみると、この移入は遺憾ながら期待できない事情にある。従来、朝鮮、臺灣から千五百万石程度移入されて内地の需要を充たしてゐたのであるが、今年はそれだけを期待することができないとすれば、今年の内米が前年に比し千二百万石程度の豊作であつたとしても、差引過剩にはならないわけである。

さらに今年の特等事情から、繰越米が非常に減少した。のみならず本年分の新穀は、いはゆる早場米として消費されてゐることに留意する必要がある。もし今秋の凶作等に備へて貯蔵を行ふとすれば、それだけ今年分の食糧

である米が減少することはまた當然である。そして外米の輸入は、今後これを従来の通り期待することは困難なばかりでなく、戦力増強の観点から許されないものである。

こゝに食糧の自給態勢を確立する必要がある、それに對する新たな創意と工夫とが行はなければならないのである。

玄米食普及の趣旨

閣議決定の要點―前述のやうな食糧事情から、政府では今般玄米食普及の方針を定め、大要つぎのやうに、玄米食普及に關する閣議決定をしたのである。

玄米食の普及に關する件

政府は現下の情勢に鑑み、綜合戦力の増強に資することを旨として、玄米食の普及を左の要領により促進することに決し、大政翼賛會をしてその實踐運動を展開せしむることとなつた。

- 一、一般家庭に對しては、玄米食の趣旨の普及に努め、進んで玄米を愛用するやう指導すること
 - 二、業務用及び團體給食の配給米は、なるべく玄米とするやう指導すること
 - 三、玄米の希望者には、事情の許す限り、麥類等の混合せざる玄米のみを配給することとするも、米麥の備給の状況によつては、麥類等の混合したるものを配給すること
 - 四、玄米の配給については、食糧當局において速かに準備を整へ、成るべく簡易且つ便宜な方法を講ずること
 - 五、玄米食の實施に伴ふ米糠の減少に伴ふ諸般の影響については、牛馬の飼料等重質畜産飼料に支障を與へざるやう措置する等、適切な方途を講ずること
- 要するにこの趣旨は、これによつて戦時下皇國の綜合戦力を増強すると共に、國民生活を一段と緊張せしめ、その剛健簡素化を圖らうといふのである。玄米食の實施に關しては、未解決の問題が残されてをり、且つ急速に解決を要求する問題もあるであらう。しかしながら、かれこれ相照合して、綜合戦力増強の上から可とすべきものはすべてこれを利用し、すべてこれを遂行しなければならぬのである。今は戦時である。徒らに議論し、批評してゐるそんな悠長な時ではない。難點がありとすれば、これを工夫と意思力によつて克服し、すべてを端的に實踐に移し、率先して起ち上るべき時である。
- 玄米食による綜合戦力の昂揚……近代戦は國をあげての總力戦である。いま、日米兩國はあらゆる總力を舉げて凄烈な死闘を繰返してゐるのである。物の足りないのはひとり我が國のみではない。交戦國は共に一大消耗戦を戦つてゐるのである。互ひに相手國の政治・經濟・文化のすべてを消耗し盡さうとしてゐるのである。従つて綜合戦力の増強とは、前線の戦闘力はもちろん、

銃後生産力の擴充、國民の經濟・文化・保健等全生活の強化安定と、國民精神力の昂揚を圖ることに他ならない。玄米食の實施により、食糧の消費を節減し、且つ外米の依存から脱却できるとするならば、綜合戦力の増強に資するところ多大なるものがあることは申すまでもない。

例へば外米輸入に要する船舶輸送力についてみると、外米一千万石を南方から輸入するとすれば、約百五十万トンといふ莫大な海上輸送力を必要とする勘定になるが、この輸送力を軍需に廻すならば、これこそわれわれの生活の中から、期せずして輸送力を献納したることとなり、戦力の増強に資するところは少くないのである。

また精米に要する電力についてみれば、一石平均一・二キロワットとし、假りに本年の生産米六千七百万石を玄米食としたとすれば、ほど東京市内の電

燈に要する二ヶ月分の電力量に近い電力が節約されることになる。また勞力一人一日の精米能力は約八石とみることも出来るが、全國の飯米を玄米とすれば、延約八百四十万人、常時二万三千人の勞力を節約することが出来るのである。

生活戦を勝ち抜かう

戦場に在つて身を處するは易く、銃後に在つて身を齊ふるは難い。戦争の勝敗が銃後生活の在り方、なされ方

玄米の炊き方と食べ方

豫備知識

玄米は穀殻を取除いたまゝの米で、ま

によつて決定するのである。食生活にとつても、ひとり玄米食にとまらざ、これまでの食生活についての考へ方を根本的に是正して、「もつたいない」をもとにした、新たな方法が確立されなければならない。

玄米食の普及は既に國策として決定をみたのである。最早や議論の時ではない。炊き方、食べ方、燃料の節約に十分工夫をこらし、この生活の中から國を愛し、國の力となり、そのすべてを結果して敵米英を屈伏させなければならぬ。かくしてこそわが子、わが兄弟、わが友たちが、陸に海に空に生命を賭してゐる姿をわが姿として、戦争生活に戦ひ抜くことが出来るのである。

だ硬い皮に被はれてゐるから、これを飯にするには豆を煮る要領で、水をやゝ多く加へ文火で長く炊き、玄米の皮が延びき



つて破れ、中味が出て十分に膨らむのを目安とするがよい。玄米は炊飯中途で水を追加したり、かき混ぜたり、火を加減しても一向差支へなく、この點むしろ炊き方は容易で、要領さへのみ込めば何でもないが、炊き方がよくないと、味も落ち消化も悪くなる。

玄米が飯になる過程は、まづ水の沸騰により、玄米内部の澱粉が糊化し膨脹するため、外皮が破れて中味が出て来る。次にこの中味が次第に水を吸ひ込んで大きく膨らむ。十分に水を吸んで、軟かに膨んだならば、再び強く加熱して餘分の水を蒸發させれば、美味しい玄米飯が出来上がる。

炊き方

- (イ) 水洗ひ—玄米は軽く一度水洗ひする程度に止め、強くながぬことが肝要である。
- (ロ) 玄米は長く水に漬けておいても、すぐに炊いても大差はない。
- (ハ) 炊飯器具—普通の鍋、釜でよい。蓋は沸騰の際、餘り蒸氣の逃げぬ程度のものでよい。

ものを運び、殊に力がかかなくともよい。

(ハ) 水加減—初めて玄米飯を試みる人は、軟か炊きを好むが、慣れると硬炊きをよく咀嚼して味はふことを好むやうになるから、それ／＼嗜好に應じて水加減すべきである。

水の分量は、米の品種、新古、乾燥度や燃料の種類と火加減等により相違するが、玄米一升位に對し水一升五合—二升程度を普通とする。若し少量の玄米を炊く場合は、水の分量割合を幾分多い目にし、多量に炊く場合は水の分量割合は幾分少なく目にする。

- (ニ) 火加減—燃料は薪、木炭、石炭、ガス等何でもよい。燃料の相異、米の量、水の多寡や寒暑によつて、炊く時間は一定しないが、氣長に炊くことが必要である。
- (三) 先づ最初、餘り強くない火で炊く。十、五分から二十分もすれば、沸騰し始め、湯氣が蓋の周囲から噴き出すから、四、五分そのまゝに置き、次に

火加減を極く弱くするか、消火して三十分乃至一時間放置する。この間に米は水を吸つて膨脹するから、十分に膨らんで盛り高くなるのを待つて、今度はやゝ強火で水の引くまで加熱すれば、美味しい飯が炊き上がる。この加熱時間は十分乃至二十分位である。

中間の膨脹に要する時間と水加減、それに加熱の要領によつて硬炊きとも軟か炊きともなる。玄米粒が十分に水を吸ふことが出来上りを意味し、水を吸ふことが出来上りを意味し、若し誤つて火が強過ぎると、早くから水が蒸發してボロ／＼の硬い玄米飯となる。以上の炊飯要領はその大綱であつて、これに從つてだいたひ誤りはないが、要は場合々々に應じ、各自が工夫をこらして、最もよいコツを物得することである。なほ最初は、経験者に實地指導を仰ぐことが近道である。

(附)

イ、玄米粥—玄米重湯の作り方
玄米粥を作るには、玄米量の五倍の水

を加へて長く煮る。

玄米重湯を作るには、玄米量の十倍の水を加へ、文火で長く二、三時間以上も煮て、どろ／＼になつたらこれを濾し取ればよい。

ロ、大豆飯の炊き方

玄米一升到大豆三合内外を混ぜて炊く。水加減は二升一合位とし、炊き方要領は全く玄米飯の場合と同様である。大豆飯には食塩を少量加へれば、一汁美味となる。小豆、豌豆等の混炊も全く同様である。

ハ、野菜飯の炊き方

芋、甘藷、馬鈴薯、大根等をよく水洗し、套の目に切り(玄米一升につき切芋五合位)玄米飯が沸騰し始めてから約五分の後、火加減を弱くする前にこれらを入れて大豆飯の要領で炊く。

炊飯上の注意

- イ、とき洗ひせぬこと。
とき洗ひすれば大切な栄養分を流失し、ビタミンの損失は夥しい。
- ロ、高麗紙を使はなくても炊ける。

長時間の加熱や高壓釜炊きでは、ビタミンの破壊が甚だしいから、加熱をなるべく少く、美味しく炊くやう工夫することが肝要である。

炊飯の途中で噴き上つたオホバを流さぬやう、水加減、火加減に注意を要する。炊事中途で加水することは差支へないが、餘分の水を汲み取るやうなことは、ぜひ避けるやう薄じめ水加減しておかねばならない。

食べ方

イ、咀嚼—玄米飯は如何に軟かく炊いても、皮が混在するから、常によく咀嚼することが必要である。咀嚼を怠ると消化が悪くなり、場合によつては下痢を誘ふことさへある。従つて食事時間に十分のゆとりを作る必要がある。

また玄米飯は茶漬けで流し込んでほならない。

ロ、塩の添加—玄米炊飯に當つて、塩味をつけることも食味を増す一法である。なほ、玄米食における食塩の多量攝取は、

保健上必要であるから、副食物には塩味の物を配することが好ましい。

注意—玄米飯はよく咀嚼するため、一度に多量を攝り難いから、肉體労働の多い者は食事回数を増すことも考へた方がよい。

大政翼賛會

寫眞週報正月號
一月六日發行
定價十錢

勅題 農村新年 — 勢山山崎の雪の月
☆はく息も凍てつく瀟々國境の驛り
☆お正月の休みはなし ○○新嘗祭の騒ぎ
☆大分國民學校生徒の海軍航空隊一日入營
☆お正月の休みに は扇間袋を流りませう
南の兵隊さんからの便りいろ／＼
☆南方露伴通信二題
煙草も饅頭も自給自足
— ビルマの貨物廠
安南の子供たちの遊びいろ／＼

編輯局報情

週報

號日三十月一

決戦下の勤勞問題
 交戦諸國の勞務動員
 國本たるべき農村の確立
 勝ち抜かう生産戦

326號

五錢

昭和十一年十一月一日第三種郵便物認可
昭和十八年一月十三日發
（毎週一回水曜日發行）

週報は民翼賛の道しるべ

お年玉で
だんがんきって
 を買ひませう

第8回賣出 1月1日→15日

抽籤日 1月20日

1枚 2円

割増金 1等1000円以下多數

當籤割合 11枚=付1枚



内閣印刷局印刷發行

（本書の大きさは國定規格[A5]判）